

令和 6 年 9 月 20 日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただいまから、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
市長、よろしくお願い致します。

◆市長

よろしくお願い致します。今日は、発表案件 4 件なんですけども、予定したのは 4 件ですが、その前に林道東俣線で発生した土砂の崩落、これによって榎島ロッヂの宿泊者等の孤立が発生していますので、その対応状況を、まず、ご説明いたします。昨日 19 日ですが、静岡市が管理しています林道東俣線、全長 27.3km ですが、その起点である沼平ゲートから上流へ 11.2km の地点で、崩落、崩土が発生しました。これは、令和 4 年の台風 14 号、大きな水害となった台風 15 号ですけども、その前の 14 号で崩落が発生して、復旧工事が行われていた場所です。崩土によりまして、林道上で 40m にわたって、700 m³ の土砂が堆積しているものと推測されます。そして、現在までに、けが人はないという状況です。林道東俣線は、榎島ロッヂ宿泊者や工事関係者車両など許可車両以外の一般車両の通行は禁止されているところです。この崩土によって、林道が埋塞して、かつ斜面上部に崩落の可能性がある土石があることから、現在通行できない状況です。写真を出してもらった方がいいですね。

これによって、19 日は、発生現場の上部に榎島ロッヂがありますが、そこに滞在している一般登山者や、リニア中央新幹線工事、あるいは林道東俣線の工事関係者、榎島ロッヂ従業員などが孤立しました。このうち体調不良を訴えた 1 名の方を、市消防ヘリで県立総合病院に搬送しました。昨日の 17 時 15 分です。静岡市としては、この崩土の規模が大きくて、多くの方が孤立状態にあったことから、昨日、19 日の 15 時 45 分に、市長を本部長とする市災害対策本部を設置しました。また、吉田副市長を本部長とする現地対策本部を井川支所に設置いたしました。写真は出ますか。こんな状況になります。ちょっと位置図は後で持ってきますけれども、指すものが…。

はい、ここが崩落地点ですけども、こちらが榎島になります。こちら側が井川側になります。ここに川がある、大井川があるという状況にあります。ここで、これが林道東俣線になりますが、この辺りでここから落ちてきて、これが埋塞しているという状況にあります。こういうところを見ていただくとわかりますように、この辺りは崩落の常習地帯ということになります。現在、これは復旧するために尽力、今、調査しておりますけど、見ていただくとわかりますように、ここに落ち残った大きな土石があります。これが落ちてくると、これを取って

いるときに、災害が発生する可能性がありますので、このあたりの処理をしないと下の工事ができないという状況にあります。

したがって、まずこれを落として、落ちたあとの安全を確認しながら、この下をとっていくということになります。今これをどうやって落とすか、落ちない状態で工事するというのは、たぶん無理だと思われるので、これを何らかの形で落としてしまって、その後ここを掘ると、土砂を撤去するという予定にしております。

したがって、ちょっと後ほど申し上げますが、かなり復旧に時間がかかる、それから、完全に埋塞していますし、危険な状態ですから、ここは人も通れないという状況にあります。もちろん、車は通れません。周りもこういう急峻な山、そして、ここは深い谷になっていますので、他にルートがありませんので、今はこれで通行ができなくて、閉塞状態ということになります。

今日の 10 時時点の対応状況です。元に、はい。昨日中に、榎島ロッジの一般登山者と、そして山小屋に泊まっている方々に連絡をしていただきました。これは、榎島ロッジの管理者を通じてやっていただきました。そして、井川から、ごめんなさい、ロッジにいる人、あるいは今、登山中の人で榎島ロッジに下山した人で、井川に移送希望ですかという希望確認をしました。その結果、今日中、昨日はもう全然移送できませんでしたので、今日、一般登山者 100 名の方、今日中に井川へ移送を希望するという方がおられました。これを受けて、今日の朝の 6 時頃から、市の消防ヘリ、そして県の防災ヘリ、この 2 機で榎島から井川への移送を開始しています。2 機でやっていますけれども、非常に狭い谷の中にありますから、2 機同時に運行ができないので、1 機ずつ燃料の補給をしたり、あるいはちょっとエンジンを休めたりしながら、今、2 機が交代で移送している状況です。すでに 20 日の、今日の朝の時点で 59 名を優先して、次のページにありますけれども、先にどういう方々がここにおられるかを確認した方がよいですけれども、まず一般登山者 59 名が榎島ロッジにいます。今日の 10 時 30 分、ちょっと 10 時 30 分現在は変ですね、朝の時点でその方々がいました。それから、山小屋ですね、赤石の小屋であるとか、そういうところに泊まっている方が 62 名おります。そして、工事関係者が 79 名で、全部で 200 名、榎島ロッジより上にいると、ごめんなさい、崩落地点より上流側にいて、通行ができない状況にあります。ヘリの移送を希望しますかという希望確認をして、一般登山客で榎島ロッジにいる方は 59 名が全員移送希望です。そして、山小屋にいる方ですけど、山小屋にいる方は今朝から降りて来られていますので、そのうちの 41 名については移送希望されていますが、残りの 21 名については、まだ今日移送を希望されるかどうかわかりません。ですが、おそらく全員移送希望されると思いますので、一般登山客については 121 名移送が必要ということになり

ます。それから、工事関係者 79 名ということになります。現時点で、10 時 30 分時点ですけど、55 名、すでに搬送済みで、井川に着いた方については、駐車場ですね、井川からさらに上流に駐車場がありますので、そこまでバスでお送りする、あるいは静岡駅に、静岡市街地ですね、市街地に移送を希望された方がいますので、4 人の方はそうしております。その他の方も 5 名おられます。今、こんな状況にあります。

現在、今日中にどのくらいの人数を移送できるかということですが、もう 1 回ちょっと戻してもらいましょう。表にしてください。今日の移送の予定ですけども、工事関係者が 79 名おられますけれども、そのうち JR 東海の方々が 69 名おられて、それ以外が 10 人ということになります。JR 東海とお話をして、JR 東海の工事関係者は後でよいということでしたので、今日はこの工事関係、JR 東海以外の工事関係者 10 名と、それから一般の登山客の 121 名、これは全員が希望されるかどうかわかりませんが、全員が希望されると 121 人が下山希望になります。合わせて 131 人が下山希望の最大で可能性があります。今、こうやって移送を続けていますけれども、今日中の移送の可能性は 135 名という予定です。

したがって、JR 東海を除いた 131 名の方については、全員下山ができるという予定です。今、急いで下山をしていただいていますけど、これはなぜかという、明日以降、天候が悪化してヘリで輸送できない可能性が高いとみています。

したがって、今日中にできるだけ多くの方を移送したいということで、今、消防が、県の防災ヘリが、頑張っけて移送を続けているという状況にあります。

JR 東海については、明日以降どうなるかということです。今日、JR 東海も自社のヘリを出して、契約ヘリですけど、それを出して移送するというお話をいただきましたけども、現場が非常に狭隘な谷になっていますので、その谷の中で、ヘリが複数航空すると非常に危険だということで、JR 東海さんには、今日はお断りをして、県と市で責任をもって行いますということで、今、移送をしております。現場の孤立の状況は以上です。

次に、東俣線の復旧の状況ですが、写真とドローン映像をお願いします。これはさっきの写真ですが、ドローンでちょっと動かしてください。もっと大きくできますか。元から、はい、それで。ここを見ていただいて、こういう、下に川があるという状況です。道はこうなっているわけですけども、ここが落ちていて、ここに大きな岩が残っているという状況になります。ちょっと止めてもらえますか。このあたりを落としたいんですけども、この上からもちょっと近づけない状況にあるので、どうやってこれを落とすか、この辺りを落とすか、というのが、今、現場で検討中ということになります。はい、動かしてください。はい、こんな感じです。一番最初のところに戻してもらえますか、はい。

これからですけれども、このルートを復旧させるんですけれども、今の状況でここが落とせるかどうかにかかっていますので、運よく落ちれば、落とすことができます、ここの量はそれほどでもないですし、それから、外から見る限りはあまり、ここの道路がやられているようには見えないので、土砂さえ取れば、復旧は可能ですので、これをどうやって落とすかというのが鍵になります。早くても、日曜日までは、ここは通行ができない、できれば月曜日には通行できるようにしたいと思っています。もう一つ、徒歩のルートをどうするかということですけれども、ここを通れませんので、この山の上を通るルートですね、ここは工事関係者が、例えば中部電力の工事の関係者、送電鉄塔なんかの関係で、この上のルートもあるようですし、それからこの川を見ていただくと、こういうところに歩行できる場所がありますので、この川のルートか、上のルートか、どちらかを確保しておきたいと思っています。今日中に崩落地を通らない徒歩ルートの確保を目指しています。というのは、ロッチに残っている方で急病ですね、搬送が必要になった場合に、ヘリが使えないということがありますので、その場合は、おそらくこういうルートを通して、消防の皆さんが、救急ですね、皆さんがここで担架で運んでいくみたいな形になると思いますので、いずれにしても、この徒歩ルートは何とか確保していかないといけないと思っています。次、お願いします。

今、21日、22日の話はこういうことにしましたので、この徒歩ルートが意外に通れるということであれば、樺島に残っている方々も、この徒歩ルートで、JR東海の関係者になりますけど、徒歩ルート、崩落地を通らない徒歩ルートで歩いていただくという可能性はあります。結構な距離がありますが、下山のためにそういう可能性があります。それから運よく、明日、ヘリが運行できれば、そのルートをヘリで運行するというのも、移送するというのもありえると思っています。東俣林道の崩落については以上ですので、先に、これについてのご質問にお答えをした方がいいと思います。

◆司会

はい。では、皆様からご質問があれば、お受けしたいと思っています。先に、NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。まず1点目なんですけど、今回の土砂崩れの原因ってというのは、どういったことが今想定されるのか、その点いかがでしょうか。

◆市長

はい。この辺りは崩落の常習地帯ということになります。先日、寸又峡でも崩落をしたりしておりますけども、おそらく、先日来、長雨が続いて、相当雨が溜まっていますので、よくある現象ですけど、雨のピークのときに落ちるのではなくて、だんだんとずれてきて、その後、落ちていくってことはあり得ますので、ゆっくり少しずつ滑りながら、最後ドサンと落ちるといったことがありますので、おそらく、そのせいではないかなと思っています。

詳細については、これから調査ということになりますけども、今はその原因よりも、現場の土砂をどう撤去して早く通れるようにするかを優先していますので、原因の究明という点でいうと、かなり後になると思っています。以上です。

◆NHK

今、難波さんもちょっと言及されましたが、寸又峡でも直近でありまして、やっぱり関連とか関わりってというのは、あるってというような見方もできるのでしょうか。

◆市長

関連と申しますか、このあたり、赤崩とかいろんな崩れているというところがありますけども、いろんなところが崩れる常習の場所です。この林道自身も通っていただくとわかりますけども、横で落石防止工も、いっぱいされていますし、それから道路にも石が落ちていることもありますので、そういった点で、落ちてくる場所ではあるんですけども、これぐらいの規模で落ちることは、そう多くないわけですけども、しかも雨が降っていないときに、しばらくしてからこうやって落ちるってというのは、いつも起きることではありませんが、ただ、やはり先日は長雨が続きましたので、その影響はかなり大きいのではないかなと思っています。

したがって、寸又峡と関連があるかということですけども、はっきりしたことはわかりませんが、ただ長雨が影響しているのではないかな、というのは推測されます。

◆司会

はい、テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。お願いします。ここの林道東俣線の復旧なんですけれども、23日までには一部車両だけでもってということなんです、リニア関連の工事も

奥でしているということで、ここが数日間通行できないということの影響というのは、どういうものが考えられるのでしょうか。

◆市長

はい、工事の影響という点では、今、おそらく土曜と日曜はお休みをされているのではないかな、工事関係者ですね、一部土日もやられている方もあるとは思いますが、多くは休みの場合が多いですので、この2日ぐらいであれば、工事の関係者にはそれほど大きな影響が出ないのではないかなと思っています。それ以上になると、影響は出てくるわけですが、ただし、現時点で月曜日にここが開けられるかどうかは、まだちょっとわからないという状況です。

◆テレビ静岡

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。では、はい、朝日新聞さん、お願いします。

◆朝日新聞

ちょっと確認なんですけど、今のところ残っていらっしゃるのは、200人、全部で200人ということよろしいですか。

◆市長

ええ、ただ、すでに10時30分時点で55の方が下山されていますので、もう今ですと、たぶん65人ぐらいは下山されているのではないかなと思いますので、あと135人ぐらいではないかなと想像します。

◆朝日新聞

それで、すいません、具合が悪くなっている方がいるとか、そういう情報は今のところないということよろしいですか。

◆市長

今のところないです。今回の移送ですが、昨日の時点でロッジの皆さんに、ロッジの管理者に名簿を作っていて、それで要配慮者ですね、先に優先して下りていただいた方がいい方を、上位の順位で下していくって、下りていた

だくということで、皆さん協力いただいていますので、そういったことで、残っておられる方は、おそらく特に問題がない方だと思います。

◆朝日新聞

それと、すいません。細かいことかもしれないですけど、昨日から今日にかけて、もしくはもう少しあれなんすけど、例えば、食料とか寝る場所の確保とか、そういうことの状況っていうのは、どうだったんでしょうか。

◆市長

はい。幸い榎島ロッジは宿泊場所ですので、南アルプスの赤石、聖岳ですね、その辺りの登山の拠点になっていますので、食料については、かなりの期間分確保されていますので、食料上の問題、あるいは寝るところですね、お風呂ももちろんありますので、そこは問題なかったと思います。ただ、ロッジの容量がそう多くないので、狭い部屋で一緒に寝ていただくという状況はあったと思いますけども、登山の方々は山小屋の雑魚寝に慣れておられますから、それほどの苦痛はなかったのではないかなと想像しますけども、むしろどうなるかわからないというご心労をおかけしたのではないかなと思っています。

◆司会

はい、静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。今のことに関連してなんですけども、この 200 人の方は全員、榎島ロッジで夜を過ごしたということでよろしいでしょうか。

◆市長

はい。200 名のうち 62 名の方は、これは山小屋におられました。ですから、赤石小屋とかですね、それから聖小屋でしたか、あるいは千枚小屋とか、そのあたりに泊まっておられたと思います。

◆静岡新聞

すいません。62 名以外の方は榎島ロッジで。

◆市長

そうですね。それで、この 62 名の方は、おそらく今朝から降りてこられていますので、まだ到達されていない方々がほとんどだと思います。10 時 30 分の

時点では、まだ山から降りてこられた方はほとんどいなかったようですので、これから順次降りてこられるのではないかなと思います。

◆静岡新聞

わかりました。もう一点、落ちて残った岩なんですけれども、これを取り除かないと、23日以降の一部車両の通行もできないということなんでしょうか。

◆市長

はい、そうなります。落ち残った状態で、下で作業して落ちると、いわゆる2次災害が起きますので、それを避けるためにも、上にあるものをまず除去した上で、除去というか、落下させた上で下の作業に入るということになります。

◆司会

はい、毎日新聞さん、お願いいたします。

◆毎日新聞

はい、毎日新聞です。ちょっとよくわからないんですけども、この表で示していただいた200人というのは、例えば、工事関係者79人というのは、戻るべき人が79人いるってということで、例えば、榎島ロッジにいるお客さんは59人だけど、従業員とか残る人たちってというのは、現場より上流側にいるんだと思うんですけど、どんだけいて、そういう人から急病人が発生したりする可能性もあるからってというようなお話なんでしょうか。

◆市長

はい、その可能性はあります。まだ、今日全員は移送できませんので、おそらく今日で60人以上が、まだ残るんじゃないかなと思います。200名のうち、今日下山できる方が131人、ヘリではおそらく131人と推定していますので、70人近くが残る可能性があります。

そして、従業員がおられ、それから下山予定じゃなくて、例えば、千枚小屋のあたりには工事関係の方々の宿舎もありますから、そっちに残っておられる方もいると思います。そういうところで急病が発生したときに、救急搬送が必要だという事態が想定されますから、そういうのを備えておかないといけないと思っています。

◆毎日新聞

その200人に含まれないその他ってというのは、イメージとして、どれだけ上流

にいるのかっていう…。

◆市長

それほど多くないと思います。榎島の従業員の方が10数人、榎島ロッヂの関係者が12名いらっしゃいます。それから、上流にいくつか、工事関係者の宿泊施設がありますから、そこにおられる方もいると思いますけど、その辺りはJR東海の関係の方が多いので、これからJR東海とお話をして、何人いるかというところについては、把握したいと思っています。

◆毎日新聞

はい、ありがとうございます。

◆司会

はい、その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。はい、朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

朝日新聞です。これからされると思うんですけど、なんとかして石を落とすっていう、何か方法は考えられるのでしょうか。

◆市長

はい、今、吉田副市長は技術者ですので、現場に行って、そして、工事関係者、それから専門家も、地質関係の専門家もいますので、そのところでどうするかっていうことを、今、協議中だと思います。石を落とすというのは、決して普段からやらないわけではありませんので、何らかの方法はあると思います。乱暴に言うと、ドーンと落とすということがあるわけですけども、ちょっと現場の状況を見ると、そういう機材を入れたりすることができないような状況ですので、上から何か振動するようなもので振動させて落とすとか、そういったことが考えられるんじゃないかと思いますが、いずれにしろ今、鋭意検討中ということになります。

◆司会

はい、では、よろしいでしょうか。では、次の案件をお願いいたします。

◆市長

はい、それではですね、今日の発表案件は4件です。

まずは、車両の浸水被害防止を目的とした「水害時緊急避難協力駐車場の募集と水害時緊急避難公共駐車場の選定」というものです。先日、台風 10 号によって、長期間の大雨が発生しましたが、その後に私もいくつか現場に行って、市民の方々の話を聞きましたが、車両を安全な場所に、水没しない場所に避難させたかったけども、避難先が確保できなかったというお話を多くいただきました。それで実際に水没の被害が出たわけじゃないんですけども、そこは、水没を防ぐためにいろんなところに駆け回ったんだけど、なかなか見つからなかったというお話をいただきました。やはり、市民の皆様の貴重な財産である車両を水害から守るために、以下の 2 つの方法により、車両の避難場所を拡充しますというものです。

一つは車両の避難場所。水害時緊急避難協力駐車場を提供いただける民間事業者を募集します。もう一つは市が所有する公共施設のうち、水害時に緊急避難ができる公共駐車場を確保して利用を可能とします。この経緯ですけども、これについては、令和 4 年の台風 15 号の際に、JAF の調査でいうと 2,000 件、あるいは県内では 3 万件の、3 万台の車両が被害にあったという情報もあります。そのうちの多くが静岡市内で発生した、被災したという情報があります。そういった中で、有限会社新日邦様ですけども、コンコルドを展開されている会社ですけども、新日邦様からご提案を受けて、今年の 5 月に新日邦の所有施設の一部の施設を、車両の避難場所として提供いただけるというお話がありました。

実際に、先日の台風 10 号の際には、この協定に基づき、駿河区曲金、東静岡の駅の南側にあるところですけど、SUPER CONCORDE の立体駐車場の一部を開放いただきました。8 月 27 日から 9 月 2 日までの 7 日間で開放いただきましたが、延べ 560 台にのぼる車両が避難できたということです。非常に多くの方々感謝されていたという話をお聞きしました。このような実績をもとに、新日邦様は SUPER CONCORDE に加えて、その他の施設について、新たに、この災害時の避難協力駐車場として提供いただけるというお話をいただいております。

先般の台風 10 号の際には、表には出ていませんけども、自主的に車両を受け入れてくださった民間事業者の方々が複数あったというふうにお聞きしています。そういったことから、これはしっかり制度として確保していくのが必要ではないかなと思います。先日、災害時の協力井戸というのを募集していますけれども、これと同じように車両の避難場所を提供いただける民間事業者を、水害時緊急避難協力駐車場として募集することにしました。

それから、もう一つは市が所有する公共施設ですけども、これはもっと早いうちにやっておけばよかったんですけども、水害時緊急避難公共駐車場というのを用意することにいたしました。まず最初の協力駐車場については、これから募集していきます。募集要領については、そこに書いてある通りですので、ちょっと

省略いたしますけども、ぜひ、できるだけ多くの方にご協力いただければと思っております。協力の場合は、この市の危機管理課にご連絡いただければと思います。

それからもう一つ、水害時緊急避難の公共駐車場ですけども、これについては静岡競輪場ですとか、そういったところについて 1,030 台を用意することにいたしました。これも無料で 24 時間ご利用いただけますので、もちろん緊急時だけで、普段はそうじゃないんですけど、この災害時のときについては、市からも、ここに駐車していただければという呼びかけをする予定ですので、積極的に災害時には、あらかじめ水害時緊急避難公共駐車場に避難していただく、あるいは SUPER CONCORDE さんのような民間の協力駐車場に避難していただくというのが、備えとしては非常に大事ではないかなと思っております。まず 1 件目については以上になります。

続きまして、「带状疱疹ワクチン接種費用の助成開始」です。これは、補正予算で、これをやることにいたしましたけれども、準備が整いましたので、带状疱疹不活化ワクチン接種費用の助成というのを、10 月 1 日から開始することにしました。このワクチンですけども、2 回の接種が必要で、接種費用は医療機関にもよりますけども、大体 1 回あたり 2 万 2,000 円で、2 回の接種が必要ですので 4 万 4,000 円かかります。これについて、静岡市は 2 回分の 2 万円ですね。4 万 4,000 円のうちの 2 万円の助成をすることにいたしましたので、ぜひご利用、接種をいただければと思います。今の時点で、市内 238 の医療機関で 10 月 1 日からの接種が可能となっておりますので、打ってみようと思っただいた方は、市のホームページ等を確認していただいて、接種いただければと思っています。対象となる方は、50 歳以上の市民の方になりますので、これについてはご注意くださいと思います。带状疱疹ワクチンについては以上になります。带状疱疹ワクチンが、なぜ有効かというあたりについては、資料の中で説明していますが、今日は発表案件も多いので、細かい内容については省略させていただきます。

次に、屋内型子どもの遊び場の充実です。これは、静岡市は雨の日に安心して子どもを遊ばせる施設がないと言われていました。焼津市にはある、島田市にはあるけども、静岡市には少ないと言われてました。実際に、私も焼津市と島田市の施設を見て、両市長さんにもお会いしましたけども、静岡市からいっぱい来てくださっているというお話はありましたが、焼津市と島田市には感謝を申し上げ、しかし、焼津市さんと島田市さんに頼るばかりではいけないので、静岡市でもきっちりと用意するというにいたしました。静岡市も雨の日に

子どもたちが楽しむ施設がないわけではありません。体験型・学習型の施設として、屋内型の施設ですけれども、「静岡科学館る・く・る」、そして清水にある、駅前にある「こどもクリエイティブタウンま・あ・る」、あるいは「駿府匠宿」などがあります。こちらも多くの方々に利用いただいているんですけれども、動かす運動型ですね、子どもがのびのびと運動できる施設、雨の日に運動できるような施設がないという、そして隣の市に行くという話を多くいただきましたので、静岡市として用意させていただくことにしました。ただ、新しい施設を設計して、そして建築していくとなると、少なくとも3年とか、それぐらいの期間は必要になりますので、今回は既存の施設を活用することにいたしました。すでに開設した施設ですけれども、西河内の子どもの遊び場1,265㎡ですけれども、これは旧西河内小学校、清水の廃校となった、清水区で廃校となった西河内小学校ですけれども、まず、とりあえずですけど、来年の3月16日まで限定に、今開放しております。子どもがのびのびと、写真ありますか。こういった形で西河内の子ども遊び場ですね、こういった形で、体育館ですので、のびのびと遊んでいただけるような施設を用意しました。利用者の声としては、これは「親子で気軽にバスケットができた」とか、あるいは「歳が離れた兄弟と一緒に遊んでいる、体を動かして遊んでいる」というので、非常に好評をいただいております。

もう一つは清水駅の西口ですけれども、ここの駅前の商店街があります。アーケード街がありますが、このアーケードそのものと、そして、そこにあった空き店舗を活用して、ここで子どもの遊び場をご用意しております。こちらが清水の風景ですけれども、こういった形で、日によっても違いますけれども、卓球ができたり、子どもがのびのびと遊べる、そして、その前のアーケード街は屋根がありますから、雨の日でものびのび遊べるということで、アーケードとこういう店舗を一体として、この施設を用意しました。これも入場無料で、1日あたり31人と、ちょっと夏暑かったときがあるので、そういうのも大変ありましたけれども、このぐらいの多くの方に楽しんでいただいています。

今後の開設予定ですけれども、水見色の子どもの遊び場というのを、700㎡をまもなくオープンする予定です。これは、先ほどの西河内と同じで、廃校になった旧水見色小学校、今年の4月に廃校になったんですけれども、その水見色小学校を活用して、これも期間限定です。まずはここで体育館と図書室、教室を使って、子どもが遊んでいただけるような施設をご用意しております。駐車場もありますので、ご利用いただければと思います。

それからもう一つ、今までの、まず西河内は中山間地といいますか、少し離れたところにありますし、それから水見色も葵区のちょっと離れたところになりますけれども、清水の駅前の銀座、駅前の商店街はJR清水駅のすぐ横になり

ます。やはり JR 静岡駅の近くにも必要だということで、JR 静岡駅北口の再開発ビル、M20 というのがありますが、その 3 階に子どもの遊び場を用意いたします。これは市が作るのではなくて、鈴与商事株式会社が設置して、市がそれに対して補助金を出すというものです。ちょっと詳細には決まっておられませんけども、こちらは民間の施設ということになりますから、有料になります。島田も、あるいは焼津の公共施設も、両方とも料金は必要ですので、ここも静岡駅の北口の施設も料金が必要ということになりますけども、質が高ければご利用いただけるのではないかなと思っていますので、非常に便利のよいところですので、ご利用いただければと思います。

それ以外に、屋内型の体験学習施設としては、静岡科学館る・く・るですね。そして清水のこどもクリエイティブタウンま・あ・る、あるいは駿府匠宿とありますので、こちらのかなりの人数に使っていただいております。それで先ほど水見色であるとか、そういうところのオープン予定をしましたが、結果的にどのぐらいの遊び場の面積になるかということですが、令和 5 年度、昨年度末までには、500 m²以上の屋内型施設っていうのは、服織の児童館だけでしたので、人口 1,000 人あたり 8.9 m²でしたが、今年度ずっと開設をしていきますので、これが 3,068 m²に広がります。合わせて 3,766 m²になって、人口 1,000 人あたりで 48.1 m²になります。政令市でどのくらいですか、市から照会すると平均 26.1 m²ですので、政令市平均の倍ぐらいのレベルの子どもの屋内型の運動施設ができたと思います。先ほど申しましたが、作ろうとってすぐに半年ぐらいで作れるという状況ですので、既存の施設を利用していき、あるいは供用予定だった施設にお話して作っていただくということでしたので、非常に早い短い期間でこれだけの施設が確保できました。

これ以外にも、まだまだ商店街の中での子どもの遊び場を作ってみようとか、そういうお声もいろいろいただいております。有料にはなるとは思いますけども、いろんなところでそういう遊び場があるというのは、非常によいのではないかなと思います。皆さん、七間町のところにある ARTIE っていうところの下で、子どもたちがふわふわのクッションのようなので飛び回っているのを、ご覧になったと思いますけども、やはり子ども達、のびのび体を動かす施設を望んでいるのだろうなというのは、外から見ても想像できます。ARTIE さんは無料で提供していただいておりますが、ああいうものを、これからも静岡市としては、ああいう民間事業者の方々にも協力をお願いして、増やしていきたいと思っています。子どもの遊び場については以上です。

最後に、「PFAS の濃度の検査結果」です。これについては、静岡市の水道水の PFAS 濃度の、ある種、全量検査をいたしました。これは、これまでは 2020 年から 2023

年度までに毎年検査地点を変えて、今まで2地点ずつ計8地点、1年に2地点、計8地点でPFASの濃度を検査してきました。その結果、PFASの濃度は全ての地点で国が定める暫定目標値50ng/Lを下回っていました。こうした中、今年の5月に国土交通省と環境省の連名で、水道におけるPFASに関する調査を行うように、広範囲に行うようにというものです。その内容ということですが、『取水地点よりも上流にPFASを排出する可能性がある工場がない場合であっても、水源のPFASが高濃度になっている可能性を否定できないことを踏まえ、市域に給水される全ての水道水の濃度把握に努めるよう求める』というものです。全ての水道水の濃度把握ということですが、

この依頼を受けて、静岡市は7月から8月にかけて、水道水の調査を行いました。静岡市では72の水源から取水した水を、水道水として市内各地域に供給しています。72の水源から出たものを、最終的に供給する場所を考えて、どこを調査すると、先ほど国の言っていた給水される全ての水道水の濃度を把握したかということがわかるように、42地点を選んで実施いたしました。ちょっと図をいいですか、結果ですね。これですね。いや、これじゃなくて、地点図ですね。

こうやって水源がどこにあって、どこで測ったかということですが、見ていただいて葵区は多くて、清水区は少ないというのがお分かりいただけますけども、駿河区も多いんですけども、葵と駿河は地下水をかなり利用していて、個別にいろんな水源がありますので、水源が非常に多いということになります。したがって、その水源ごとによって濃度を測っていかないといけませんので、葵と駿河については調査地点が多いということになります。そして、清水については、こちらの承元寺のところから取水をしているというのが非常に多いですから、一体的に、こないだ脆弱性が出てしまいましたけど、1ヶ所から取水をして、清水区の多くの地点に供給していますので、その点で清水区については、濃度検査数が少ないということになります。

結果として、どういうことだったかということですが、結果の図をお願いします。この通り、葵区、駿河区、そして葵区の山間地ですね。それから、どんどん上げてください。こういった清水区が、これで調査をしましたが、この結果、どの場所においても国の5ng/Lを十分下回っているという状況が確認できました。したがって、静岡市の水道水は安心してお飲みいただけますということになります。はい、このPFASの件については以上となります。以上で発表案件を終わります。

◆司会

はい、では、発表案件について、皆様からご質問をお受けしたいと思います。

ご質問ある方はお願いいたします。よろしいでしょうか。

では、幹事社質問に移りたいと思います。共同通信さん、よろしくお願いいたします。

◆共同通信

はい、共同通信です。よろしく申し上げます。9月17日付けで、静岡県からリニア事業に関してのボーリング調査の実施を了承するというような回答がなされました。これまで川勝平太前静岡県知事が認めてこなかったボーリング調査だったり、あと掘削工事に関して大きな一歩になると思うんですけれども、この了承したということに関して、市長の見解と、あと、もしあれば今後のリニア事業に対する懸念だったり、JRに対して求める姿勢があれば伺いたいと、よろしく申し上げます。

◆市長

はい、まず、ボーリング調査についての受け止めということになりますけれども、これはやはり県内のボーリング調査について、県が実施を了解したことについては、これは適切な判断だと思えます。現在、山梨県内で高速長尺先進ボーリングが行われていますけれども、そこでJR東海が、湧水量や水質等を継続的に測定してそれを公表しています。その際には、湧水量が管理値に近づいた場合は、慎重に掘削を行うなど、リスク管理をしっかりとやりながら進めるということをしていると伺っております。

したがって、これから、まだ山梨県内でボーリングをされているようでも、いずれ県が了解されたということで、静岡県内のボーリングも始まると思えますけれども、静岡県内でボーリングが行われるときも、今、山梨県内で行われているのと同様に、しっかりと、観測をして、リスク管理をしていただきたいと思っています。

今度、静岡県内で先進ボーリングで得られたデータが出てきますので、それを元にトンネルの湧水量や生態系への影響がどうなるのかということの評価していく必要があると思えます。現時点ではトンネルの掘削地点、山梨県もそうですが、山梨県境から静岡県境を越えて静岡県内に入ってきた辺りの、例えば、透水係数ですね、岩の中の水の通りやすさの透水係数であるとか、そういったことが推定でしか分かっていませんので、その推定のもとにシミュレーション計算をして、数値解析をして、湧水量というのはこのくらいだろうということを推定していますけれども、これからボーリングをして、実際のデータが出てきますので、今度はそのデータを元にまたシミュレーションするということもありえると思えますので、調査することによって、この環境影響評価が、より精緻に行う

ことになると思っていますので、この調査を行うというのは、我々としては静岡市としては歓迎したいと思っています。ただし、しっかりとしたリスク管理をしていただきたいということです。はい、以上になります。

それから、JR に求める姿勢ということですが、リスク管理をしっかりと求めるということを申し上げましたけども、やはり今年の2月下旬に、岐阜県の瑞浪市で発生した事象ですね、井戸などの地下水位低下について、適切な情報公開が行われていませんでしたので、やはり調査をした上で、あるいは現場の状況について、JR 東海においては迅速な情報開示、そして、丁寧な説明、これが必要ではないかなと思っています。しっかりとした危機管理意識を持って、社会からの信頼を得るような工事を実施していただきたいと思っています。以上です。

◆共同通信

ありがとうございます。

◆司会

はい、それでは、ただいまの幹事社質問に関連したご質問をお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、その他のご質問があればお受けしたいと思います。はい、NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

同じリニアに関してなんですが、先日の県の専門部会で、燕沢の発生土の直下に断層があるということが示されました。まず、そのことについての市としての受け止めはいかがでしょうか。

◆市長

はい、断層があるということについては、まずリニアのトンネル通過地点ですけども、この盛土の置き場に関わらず、南アルプスの悪沢岳の周辺ですね、この辺りは断層だらけという状況ですので、断層が存在するというのは、よくあることだと思います。以前に申し上げたかもしれませんが、ここにちょうど資料がありますが、普通のこういう安倍川の下流だと、だんだんこういうふうに地層が上に上がってくるわけですね。川から水が流れてたまるので、古いもの、そして次のものって、こうなっているの、こうやって平らにたまっていくわけですね。荒川岳、悪沢岳のところは、そこはフィリピン海プレートで押されて、グーッと立ち上がってきたものですので、地層はみんなこういうふうに、こう

じゃなくてこういうふうになっています。ですから、これがほとんど断層、これが断層とは言いませんけど、こういう平らに積もっているのではなくて、立った状態になっていますので、断層だらけと言っていいと思います。

したがって、断層があることについては、特に大きな驚きがないわけですけども、その一方で、あの場所に断層があるということ、燕盛土の下に断層があるということを明確に示されたということは初めてですので、やはりもっと先に、その情報を提示するべきであったと思います。

ただ一つだけ気をつけておかないといけないのは、断層があるから危険という、直ちにリスクが極めて高まるというわけではありません。ちょっとだけ時間をいただいてご説明するとすれば、ハザードとリスクって言うのはよく言いますが、ハザードというのは危険のある要因ですね。ゴルフなんかで例えると、ウォーターハザードとか、水平のハザードとかありますけど、例えばバンカーというのも一つのハザードで、あれは危険要因なわけですね。だからバンカー自身が危険なわけじゃなくて、バンカーにボールが落ちると、その後、バンカーから打つときに失敗する恐れがある、それがリスクなわけですよ。だから、ハザードというのは危険な存在、例えばゴルフ場で言うと、バンカーだと思って、その後ミスショットしてしまう、バンカーの中でミスショットしてしまうのが、リスクということになります。

これも盛土と同じで、ごめんなさい、盛土がある場所だとして、そこに断層があるということは、断層はハザードなわけで、危険因子なわけですけども、危険因子があるからといって、必ずリスクがものすごく大きくなるわけではないわけですね。そこをしっかりとした評価をする必要があります。

ライオンに例えたりすることもありますけど、檻にライオンがいるときに、檻の中のライオン地震は危険因子ですけど、その中に人が入ったりしない限りはリスクはないわけですよ。だから、断層があるからといって、直ちに危険が増すというわけではない、リスクが増すというわけではないということを、まず認識していかないといけないと思います。

ただ、そういうハザードって危険因子があるということは、その危険因子があることによって、盛土の安定性がどう変わるかということについては、やはり科学的な評価が必要になると思いますので、それはしっかりやる必要があると思います。

したがって、断層がある、それによって地震力の伝わり方、地震の波の伝わり方がどう変わって、それで盛土の安定性がどう変わるのかっていう評価を、このリスク評価はしっかりやっていく必要があると思いますが、これは科学的根拠に基づいてしっかりやるということが必要だと思います。

ですから、断層があるからすぐ危険が、とんでもない危険が上がったというふう

に過剰反応するのではなくて、断層があるということをしっかりと受け止めて、適切なリスク評価、環境影響評価のための解析をすることが必要だと思っています。

◆NHK

その場というのが、市のリニア協議会ということになりそうでしょうか。

◆市長

そうですね。市のリニア協議会でも、今、詳細な盛土の安定性の検討をしています。これについては、県の専門部会よりも市の専門部会が中心になってやっていますので、今かなり解析が進んでいますが、その解析の中で、断層の存在というのをどういうふうに評価していったらいいのかということ、しっかりと検討していくということが必要ですので、おそらくこの部分は、前も申し上げましたが、県と市で並行して別々にやるというんじゃなくて、県が、ごめんなさい、市が先行しているところは、市が先行してちゃんとした検討を行って、それを市の協議会の考え方として、県の専門部会にお伝えするというのがよいのではないかなと思っています。

◆司会

はい、その他、いかがでしょうか。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。プロ野球のくふうハヤテですけども、来週末で1年目のシーズン、レギュラーシーズンが終わりますけども、ホームゲームの観客数ですね、これが平均830人ぐらいだと思うんですけども、これちゅ～るだけに限ると710人ぐらいということで、まず数字について、いろいろ静岡市はバックアップされていますけども、どう評価されますでしょうか。

◆市長

はい、元々、1試合あたり、ハヤテさん、7,8百人を想定されていたと聞いています。私達、静岡市としても、1,000人いけたらいいなということは思っていましたので、私達というより、私が思っていたと言った方がいいかもしれませんけど、1試合あたり1,000人ぐらい来てくれるといいなというふうに思っていましたので、830人ということが平均ですので、ちょっと足りないのは足りないとは言えますけども、かなり良い水準ではないかなと思っています。1年目で、しかも1軍がない、2軍として始まったチームですので、そこに

1 試合あたり 800 人を超える方に来ていただいたというのは、私としては感謝を申し上げ、良い結果ではないかなと思っています。

ただ、良い結果というのは 1 年目として良いと言っているのです、これで良いということではないのです、これから 1,000 人が 2,000 人とか、そういったことで増えていくことを、市としても応援していきたいと思っています。

◆テレビ静岡

具体的に、なにか今後、支援していくということはあるですか。

◆市長

例えばですけど、今、照明の LED 化をやっていかないといけないと思っています。これはプロの基準に合っていないので、そうすると、夜のナイトゲームができない状況になっているわけですね。

したがって、今、LED 化を進めようとしていますので、LED 化は今の蛍光灯の問題っていうか、LED 化というのは省エネの問題としても、どうしても進めていかないといけないので、その関係でもありますが、この球場が LED 化されると、これまた特に最近暑いということもあり、夜の球場に行くっていうのは、より行きやすくなると思いますので、そういったことも応援をする一つだと思っています。それ以外にもいろいろなことがあると思いますので、いろんな形で応援をしていきたいと思っています。

◆司会

はい、その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。

◆市長

はい、ありがとうございました。

◆司会

ありがとうございました。次回は 10 月 11 日、金曜日の 11 時からの予定となります。よろしくお願いいたします。